



伏見板橋 後期 学校評価号

令和7年3月3日

京都市立伏見板橋小学校

校長 竹原 正樹

TEL 075-611-5158 FAX 075-611-5290

mail : itahashi-s@edu.city.kyoto.jp

2月の学校評価アンケートでは、前期に引き続き、多くの皆様から回答をいただきました。お忙しい中、本校の取り組みに協力いただいた保護者の皆様、地域の皆様、本当にありがとうございます。

本校では児童に付けたい資質・能力を「自己指導能力」として、日々の教育活動を進めています。この自己指導能力を高めていく手立てとして、生徒指導の関わりを活かした教育活動を進めています。今回のアンケート内容も前期と同様に、これらの視点で検証を進めていけるような項目を設定し、集約しています。この結果を教職員一同で共通理解し、よりよい学校づくりのために日々、改善を図っていきたいと考えます。

今回は結果の一部分を取り上げ、考察等をご報告させていただきます。

<学校教育目標>

**夢をもち 自らの未来を創る 子どもの育成
～考え 判断し 実行する子～**

<付けたい資質・能力>

自己指導能力

その時、その場でどのような行動をとることが適切であるか自分で判断して行動できる力

自分の言葉で伝える力

<自己指導能力を高めていくために重点を置く4つの視点>

○自己決定の場の提供

…児童が授業場面等で自分の意見や考えを自由に発表できる機会づくり

○共感的な人間関係の育成

…児童が生活集団の中で、相互の多様性を認め尊重し合う関係づくり

○自己存在感の感受（自己存在感を感受できるような配慮）

…児童が自己存在感を実感でき、さらに自己肯定感、有用感を育むことができる配慮

○安全・安心な風土の醸成

…児童が学級やHR等で安全かつ安心して学校生活を送れるような風土づくり

☆グラフの数値は、各項目に「よく（とても）・どちらかというと（だいたい）」と回答した割合を表しています。

Q4. あなたは、授業中、自分の力で考えたり、調べたりする時間がありますか？

自己決定

95

96

前期

後期

児童

前期と比較して、肯定的に捉えた児童が1%上昇しました。年間を通して、日々の授業の中で、子どもたち自身が考えたり、調べたりする場面を意識的に取り入れている結果であると考えられます。このような授業展開を今後も継続していく、自分で考えたり判断したりしたことを積極的に発信していくようにしていきます。

Q6. あなたは、学習の仕方を自分で見つけたり、選んだりしていますか？

86

87

前期

後期

児童

前期と比較して、肯定的に捉えた児童が1%上昇しました。一方で、一部の児童にとって、学習方法を選択するような主体的な学びになっていないと感じるようです。教師からの指示だけで進めていくのではなく、児童自身が学習方法等も選択し、主体的な学びとなるように取り組んでいきます。

Q7. あなたは、友だちが発表しているとき、うなずくなどしながら話をよく聞いていますか？

前期と比較して、2%下がりましたが、9割近くの子どもたちが、自分の意見だけにとらわれることなく、他者の意見も大切にして学習していく姿がうかがえます。この数値からも、日々の授業の中で、友だちの意見も大切にしたいという共感的な学びが定着していると感じられます。聞き手の意識を高められるよう、学習に取り組んでいきます。

Q8. あなたは、友だちの意見が自分の意見と違っていても、最後まで聞いていますか？

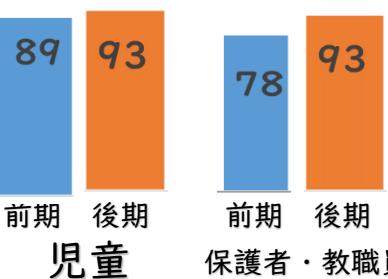
前期と比較して2%下がりましたが、95%以上の児童が肯定的に答えています。自分の考えだけに固執せず、友だちの意見も大切にしようとする本校児童の様子が見られます。意見を言う側も聞く側も相手意識をもって、日々の授業や教育活動の中で実践を進めていきます。

Q9. あなたは、友だちと学習するのは、楽しいですか？

自己存在感



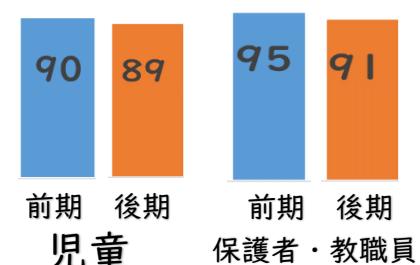
前期と比較して、2%上昇しました。学校という場で、多くの他者との関わりを楽しいと感じる児童が多いことは喜ばしいことです。友だちと一緒に学び合うことで、新しい発見も多くあります。ただし、数%の児童はそう感じていないという実態もしっかりと受け止め、今後も教育活動を進めていきます。

児童Q11. 先生や友だちは、あなたの頑張りを褒めてくれますか？

前期と比較して、肯定的に捉えている数値が上昇しています。児童の多くは頑張ったり粘り強く取り組んだりした際に、先生や友だちが褒めてくれていると感じており、その様子は、保護者の方々へも、多くの場面で発信できているようです。

児童　　保護者・教職員

安全・安心

Q14. あなたは、学校が楽しいと感じていますか？

前期と比較して、どちらも数値が下がりましたが、約9割の児童・大人が「学校が楽しい」と感じています。しかし、1割の児童・大人は、そのように感じていないようです。学校や学級が楽しい場所であるという安心感が、児童の安定した学校生活の基盤になります。この結果を受け止め、日々の教育活動を進めていきます。

Q23. あなたは、失敗をおそれず、色々なことにチャレンジしていますか？

前期と比較して、どちらも数値が下がっています。特に、大人では、20%も下がりました。子どもたちにチャレンジできる場の提供を工夫したり、認め合える集団を育んだりしていくことが、積極性を向上させ、様々な場面で発揮できるように支えていきます。